

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201322		
法人名	有限会社 アートプロジェクト		
事業所名	グループホーム 清水梅ヶ谷の家 (1号館)		
所在地	静岡市清水区梅ヶ谷227-1		
自己評価作成日	平成24年9月20日	評価結果市町村受理日	平成24年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先: [x.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2010\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=227](http://x.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=227)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街の中に建てられたホームでは、利用者と職員が人生の時間を共有する者同士として、親密な人間関係を築きながら、日々の生活を営んでいる。利用者一人ひとりが思い思いに過ごせるよう、本人の生活スタイルを重視し支援するようにしている。月1回、近隣ボランティアによる絵手紙教室では、利用者が多数参加され、絵手紙を通し家族、友人の絆を深めている。また、敬老会やクリスマス会、春と秋の遠足等の行事では、利用者や家族に楽しんでいただける企画を提供できていると思う。健康面では、日々、利用者の自立に向けたリハビリや口腔ケアへの取り組みに力を入れている。特に若い職員は向上心が高いので、施設側としても日々の業務の中で、職業能力の向上につなげられるようバックアップに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東西をつなぐ主要道路を山手に1本はいった新興住宅地に事業所はあります。ここ3年で管理者が2度交替していますが、職員意識の高さにも支えられ、前管理者の残した遺産を引き継いで、新たな取り組みをしようとの気概が受けとめられました。例えば、運営推進会議の運営を担当制としたのは前管理者で、それぞれの責任感と企画力を醸成しています。一方現管理者は職員の発意を大切に、後方支援で盛り立てていきたいと考えており、職員の自主性を大切にしています。「今回は家族全員に参加してもらいたい内容だった」との反省会での職員の言葉からも、本件に尽力し、また利用者と家族の役に立ちたいとの想いが伝わってきます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人および梅ヶ谷の家の理念は、ホームの壁面に数箇所掲示しており、職員が日常業務の中で、それを意識し取り組めるようにしている。	理念に基づき職員で話し合い作成した目標をもっています。さらに、目標を「具体的な取り組み」として掲げ、職員が実現しやすいようにとの工夫もみられます。ただし、これらは2年程前に作成したものであるため、管理者はあらためて話し合う機会をもちたいと考えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練に参加したりする他、近所のボランティアの方に定期的に来訪していただいたりしている。地域の行事にも随時参加させていただいている。	町内会に加入し回覧板も回してもらっていて、地域清掃や防災訓練に参加しています。月に1回近隣住民による絵手紙と音楽のボランティア訪問があります。今後は、地元から勤務する職員一人ひとりを地域のパイプ役として活用していくことも視野に入れています。	地域との交流は年々少しずつ進んでいます。また、事業所も関係構築に意欲的です。したがって、年間計画をもったさらなる取り組みを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族との交流や運営推進会議の場において、認知症の知識と支援の方法について、事業所が持っているノウハウを提供している。中学生の職場体験の受け入れも考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホーム側で議題を用意し、その内容について包括職員、民生委員、家族の方から活発な意見をいただき、ホームの運営に活かせるようにしている。	年6回の予定表を事務所に掲示して、担当者名・議事録作成の有無など一目で把握できます。定期開催が充実する中、本年は「家族に積極的に参加してもらえるように支援する。」「来てよかった、役に立ったと思ってもらえるように。」との目標をもって取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームには生活保護を受給している利用者が多く、ホームの機能を活用しながら、家族全体の生活問題の解決に尽力できるよう、行政に協力している。	運営推進会議に包括は毎回参加してくれていて、事業所も市が主催する研修に参加し、連携に努めています。また、月に1回訪問する介護相談員からは運営上役立つ意見をもらっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所では身体拘束ゼロ宣言をしており、朝礼や定期的な研修を通して、職員は身体拘束をしないケアを常に学んでいる。	法人本部から配信されるインターネット学習において、全職員の知識が標準化されつつあります。ほかにも、市が主催する研修に参加し、広く学習機会を求めています。法人本部は「接遇」に本年力を入れており、身体拘束排除へ角度の異なるアプローチ材にもなっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な社内の研修では、毎回虐待防止について取り上げている。また、職員会議でも、スピーチロックやドラッグロックについて学んだりして、研鑽を深めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中には日常生活自立支援制度を利用していたり、成年後見人がついている方が複数いて、職員は業務を通して権利擁護の制度を学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容について疑問があれば、納得のいくように丁寧に説明し、利用者や家族の不安を払拭するように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの入り口に、苦情対応の窓口を掲示している。また意見箱を設け、運営に対する外部の声を収集している。また、介護相談員を受け入れていて、利用者の普段聞けない声を汲み上げてもらっている。	家族と良好な関係が築けている利用者が少なく、事業所とやりとりが叶う家族が実際は僅かです。対象数は少ないものの、運営推進会議や行事の参加を呼びかけ、意見をもらう機会を設けています。遠方の家族にも普段の様子が伝わるよう写真や手紙を添えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本部地域責任者が出席する月1回の職員会議等の場で、職員からの意見や提案を積極的に聞き、ホームや法人の運営に活かすようにしている。	着任間もない管理者ですが、これまでケアマネージャーとして関わっていたため、職員とは意思疎通がスムーズです。会議においてもできるだけ管理者が決めず、職員の話し合いのリレーションと合意形成のプロセスを重視しています。行事レクに職員意見の反映がみられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に対しては、手当を支給していて、職員の向上心を後押ししている。また、定期的な人事考課によって、実績のある職員に対しては、給与面で評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には年2回、法人が催す研修を受けることが義務付けられている他、認知症実践者研修等の外部の研修に、出来るだけ多くの人が受講する機会が与えられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターや病院、居宅介護支援事業所との関わりを通して、同業者と交流し、見識を拡げている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居時とは特に密にコミュニケーションを取り、本人の思い、困りごとを汲み取り、それに合ったサービスを考え、利用者が、ホームに早く馴染むことが出来るよう、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者のホームでの生活に対する家族の思いをよく聞き入れるようにし、出来るだけ要望に沿った形でサービスを提供できるよう、努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時には、優先的に必要な支援の見極めを行い、必要があれば外部の社会資源の活用も行い、本人だけでなく家族の生活の安定をも目指すようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が親で、職員は子ども、どちらが支えているのか解らない、と言う話が出るほど、お互いに家族的な関係が出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院、外出等は出来るだけ家族の協力をお願いしている。面会に来られた時に、家族に食事介助をお願いしたり、一緒に歩行練習をしてもらったりして、意図的に交流の機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人の来訪は、これからも出来るだけ継続されるよう、支援している。よく行った馴染みの店に連れて行ってほしい、という希望にも応えている。	友人や隣近所の人が訪ねてくれ、また利用者も家族や友人へ絵手紙を届け、双方向のやりとりが実現しています。在宅時からの趣味である編み物やくす玉作りを継続している利用者もいて、糸などの買い物も職員と一緒に掛付け自ら選んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は各利用者の性格や相性等をよく理解し、ホームでの生活の中で、良い形で利用者同士が関わり合えるような環境づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者が入院により退居した後も、継続してお見舞いに訪れ、その後の支援にスムーズに移行できるよう、気配りをしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話の中から、利用者一人ひとりの思いを聞き取っている。意思疎通が困難な利用者については、生活歴や家族の話などから、本人の希望を推測している。	日々の気づきを記入する介護記録には発語そのものを記載するようにしていて、想いを大切にす姿勢が視えます。介護記録については会議で話し合い、精査しています。墓参へ行きたいとの要望も家族が付添えない場合は職員が随行するなど、実現に尽力しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や居宅ケアマネ、行政担当者などからの入居時における聞き取りで、これまでの生活の様子や、サービス利用の情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後しばらくは集中的に本人を観察し、どこまで自分で出来るのか、どのような過ごし方を望んでいるのか、健康状態に問題はないのか等を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスや、日常的な業務の中での意見交換を通して、本人にとって今一番重要な課題を把握し、ケアに反映するよう努めている。	個人毎にモニタリングとプランの予定表が掲示されていて、取り組み意識の高さを感じます。実践者研修で学んだセンター方式をさらに活用しようとしていて、カンファレンスで実際に取り組み始めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子に変化があれば、即時、介護記録詳細、連絡ノート等に状態を記入し、職員間で情報を共有することによって、統一した対応の見直しが臨機応変に出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設における日常的なケアの枠外であっても、職員の人員配置で対応できる範囲内であれば、本人の希望に出来る限り応えるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、地域包括職員、民生委員等を招き、地域の社会資源について情報を交換し、利用者のケアに役立っている。近隣ボランティアの方が、絵手紙教室を毎月開いてくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関の選択については、これまでの受診の経緯や、本人や家族の希望をまず優先している。職員は診断内容をしっかりと把握し、ホームでの適切な療養につなげるようにしている。	利用者のほとんどが協働医療機関に変更し、職員が受診支援を行っていますが、家族が積極的に受診支援くださる利用者もいます。医療情報は個人ファイルに記載され、申し送りでも随時共有化しています。服薬はマジックで色分けし、またダブルチェックもかけています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームには看護職はいないが、かかりつけ医院の看護師に、受診・往診時に相談し、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院にアセスメントシート等を渡し、ホームでの生活の状況を伝えている。また、定期的に病院に本人を見舞い、状態の変化に合わせて側面的な援助をするようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期では、早い段階でご家族や主治医と連絡を取り、ホームで出来ること、出来ないことと関係者で話し合い、本人にとって最良の選択がなされるよう、連携を強化している。	AEDの講習に参加するなど、緊急時の対応についての取り組みはみられますが、ターミナルケアへの体制は整っていません。体制づくりは今後の課題ですが、いずれにしても医療連携の伴う看取りはできないと判断しています。	事業所の考えや体制について家族への理解を求める機会を年1回程度つくることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、急変時対応の研修を受けている。また、対応マニュアルを作成し、各利用者ごとのデータをまとめてあり、それを各フロアに配置して、緊急時に役立っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っており、消防署や近隣の住民の協力をお願いしている。職員は防災訓練に、交代で全員参加するようにしている。	豚汁とむすびの炊き出しやテント張りなど多様なメニューを実践しています。「近所の人々の興味を湧くように」と、煙がでる仕掛けを用意くださるなど、消防署の職員の協力も得ていますが、地域からの参加は未だ実現していません。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳、プライバシーに配慮することの意味を職員会議で話し合い、実践に結びつけるよう努力している。	法人本部が接遇向上に取り組んでいて、朝礼時には個人情報や倫理・法令遵守などと併せ読み上げしています。トイレ誘導もさりげない声掛けを心掛けるなど諸所一般的な取り組みは成されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、共に生活する中で、利用者の日々の思いや希望を聞き、利用者が自分の意思に沿った暮らしが出来るよう、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の本人の健康状態や、気分次第で、居室ですごす、ホールのソファでテレビを見る等、思い思いに過ごせる自由を確保している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で着たい洋服が選べる人には、選んでもらっている。希望があれば、職員の手で髪の毛を染めたり、散髪をしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その時の状況次第で、利用者に台所に立ってもらったり、随時手伝いをお願いしている。お好みのメニューの日には、利用者と一緒に献立を考えている。	普段は業者から仕入れた食材で職員が手作りしていますが、利用者がメニューを考案する日が週2日あります。食事のスピードや咀嚼など摂り方に個人の特徴があるため、職員が一人ひとりに声かけし廻っている様子を視認しました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの咀嚼の力、嚥下の力に合わせた形態の食事を提供している。食事の量は、各人の必要摂取カロリーに応じて、調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には、口腔ケアの声掛け、誘導を行っている。自分で出来る人には、自分で行うようにしてもらっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握し、声掛け・誘導を行い、失禁のないように配慮している。おむつは、体調が悪いなど、余程の時でないで使用していない。	日中はオムツなしで、トイレでの排泄を旨としています。トイレ介助が必要な利用者が大半なため、職員は排泄チェック表からのパターン把握とともに、見守りがもれないよう留意しています。センター方式を利用した詳細な記録も取っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用い、便秘に気を付けている。水分の摂取、食物繊維の摂取、運動の習慣に気を配っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ホームの運営上、何時でも好きな時に入れる、とまではいかないが、出来るだけ各利用者の声に耳を傾け、希望を取り入れるようにしている。	週3日を目安に、入浴日の変更やお湯の熱さの好みなど利用者の意向に応じています。また、1階と2階で交互に湯をはっていて、希望があれば毎日入浴できます。言葉のキャッチボールができる人は、職員との会話を楽しんだり、歌を唄う人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で心地よく休んでもらうために、空調の温度調節には気を使っている。布団は定期的に日に干し、シーツは洗濯している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のことで分からないことがあれば、医師や取引先の薬剤師に相談している。日々の利用者の観察の中で、薬の副作用が疑われる症状には、特に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯物たたみなど、それぞれの利用者に出来ることはやっていただき、本人の持っている力を活かし、自尊心が維持できるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の要望があれば、気軽に買い物やドライブに同行している。近隣の散歩には、日常的に出掛けている。	天候や体調が整えば、散歩に出かけています。難しい場合は、戸外のベンチで訪れる鳥を眺めながら外気浴を楽しんでいます。週2日買い物に行く際は利用者も一緒に行ったり、随時ドライブに出かけています。また年2回の遠足も利用者の楽しみとなっていて、次回は動物園を予定しています。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者から買い物の希望があるときは、施設で管理している本人のお小遣いを渡し、近所のスーパー等に行って、本人自身に買い物をしてもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、職員の付き添いのもとでかけてもらっている。手紙を出すときは、出来るだけ本人の自筆で書いてもらうように援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のリビングには、利用者の作った手芸を飾り、居心地の良い空間づくりを演出している。トイレや風呂場には表札を設け、場所の見当識障害を補っている。	食事が終わると居室ではなくソファーに座る利用者が多く、共用空間が居心地のよい場所であることが視えます。利用者の作品である絵手紙も季節を彩る手助けとなっています。また、窓際で健やかに育つネギのプランターが、日頃の職員の関わりの深さを物語っているようでした。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの利用者の行動障害が、他の利用者にな不快な感情を生じさないよう、職員は各利用者の座る場所や、交流の様子に気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人が使い慣れた家具や、好みの装飾品を持ち込んでもらっていて、本人が安心して居られる部屋づくりをもらっている。	ベッドは備えつけですが、身体状況によって配置を替えています。また、転倒防止などの観点から、ベッドをはずしマットに布団を敷いている利用者もいます。鏡台や仏壇など馴染みの調度品を持ち込んでいる居室もありますが、大半はクローゼットに収納されすっきりとした空間です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、廊下、居室、トイレ、浴室等ホーム内には全て手すりが取り付けられていて、利用者の自立歩行を補助している。危険なものは、利用者の手の届かないところに置くようにしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2274201322		
法人名	有限会社 アートプロジェクト		
事業所名	グループホーム清水梅ヶ谷の家 (2号館)		
所在地	静岡県清水区梅ヶ谷227-1		
自己評価作成日	平成24年9月20日	評価結果市町村受理日	平成24年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [x.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2010\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=227](http://x.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=227)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年10月10日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

閑静な住宅街の中に建てられたホームでは、利用者と職員が人生の時間を共有する者同士として、親密な人間関係を築きながら、日々の生活を営んでいる。利用者一人ひとりが思い思いに過ごせるよう、本人の生活スタイルを重視し支援するようにしている。月1回、近隣ボランティアによる絵手紙教室では、利用者が多数参加され、絵手紙を通し家族、友人の絆を深めている。また、敬老会やクリスマス会、春と秋の遠足等の行事では、利用者や家族に楽しんでいただける企画を提供できていると思う。健康面では、日々、利用者の自立に向けたリハビリや口腔ケアへの取り組みに力を入れている。特に若い職員は向上心が高いので、施設側としても日々の業務の中で、職業能力の向上につなげられるようバックアップに努めている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

東西をつなぐ主要道路を山手に1本はいった新興住宅地に事業所はあります。ここ3年で管理者が2度交替していますが、職員意識の高さにも支えられ、前管理者の残した遺産を引き継いで、新たな取り組みをしようとの気概が受けとめられました。例えば、運営推進会議の運営を担当制としたのは前管理者で、それぞれの責任感と企画力を醸成しています。一方現管理者は職員の発意を大切に、後方支援で盛り立てていきたいと考えており、職員の自主性を大切にしています。「今回は家族全員に参加してもらいたい内容だった」との反省会での職員の言葉からも、本件に尽力し、また利用者と家族の役に立ちたいとの想いが伝わってきます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく、地域との交流、喜ばれるホーム、一日一日を大切に、という事業所の理念を、職員は日々意識しながら、業務に当たっている。	理念に基づき職員で話し合い作成した目標をもっています。さらに、目標を「具体的な取り組み」として掲げ、職員が実現しやすいようにとの工夫もみられます。ただし、これらは2年程前に作成したものであるため、管理者はあらためて話し合う機会をもちたいと考えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、日常的な外出の中での地域の人たちとの関わりや、地域のイベントへの参加を大切にしている。	町内会に加入し回覧板も回してもらっていて、地域清掃や防災訓練に参加しています。月に1回近隣住民による絵手紙と音楽のボランティア訪問があります。今後は、地元から勤務する職員一人ひとりを地域のパイプ役として活用していくことも視野に入れていきます。	地域との交流は年々少しずつ進んでいます。また、事業所も関係構築に意欲的です。したがって、年間計画をもったさらなる取り組みを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の持つ認知症ケアに関するノウハウは、運営推進会議等の場で、家族や民生委員の方々に発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎回、病気への対応、介護事故の予防等のテーマを決めて話し合いを行い、来所してくれる関係者の意見を、積極的に汲み上げ、サービス提供の参考にしている。	年6回の予定表を事務所に掲示していて、担当者名・議事録作成の有無など一目で把握できます。定期開催が充実する中、本年は「家族に積極的に参加してもらえるように支援する」、「来てよかった、役に立ったと思ってもらえるように」との目標をもって取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議は、包括職員や市職員の出席のもと、行われている。生活保護の利用者に関しては、生活支援課のワーカーの協力関係が密である。	運営推進会議に包括は毎回参加してくれていて、事業所も市が主催する研修に参加し、連携に努めています。また、月に1回訪問する介護相談員からは運営上役立つ意見をもらえています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議等の場で、職員は身体拘束にあたる行為を学んでいる。本部が主催する半年に一回の研修でも、身体拘束について学んでいる。	法人本部から配信されるインターネット学習において、全職員の知識が標準化されつつあります。ほかにも、市が主催する研修に参加し、広く学習機会を求めています。法人本部は「接遇」に本年力を入れており、身体拘束排除へ角度の異なるアプローチ材にもなっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本部による半年に一回の研修で、職員は虐待防止について学んでおり、身体的にも、心理的にも、利用者を虐待することなどないよう、努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事務所には権利擁護に関する書籍が置いてあり、職員は休憩時間等にこれらを読んで、制度についての理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法令が改定され、利用料が変わった時などは、十分に説明する機会を設けて、理解をもらうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族との直接の話の中で、また毎月来所する介護相談員を通して、ホームでのケアに関する要望を聞き、業務に反映している。	家族と良好な関係が築けている利用者が少なく、事業所とやりとりが叶う家族が実際は僅かです。対象数は少ないものの、運営推進会議や行事の参加を呼びかけ、意見をもらう機会を設けています。遠方の家族にも普段の様子が伝わるよう写真や手紙を添えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する事項については、管理者は、法令や本部の指示、事業所の業務遂行上支障のない限り、職員一人ひとりの意向を尊重し、働きやすい環境づくりを心掛けている。	着任間もない管理者ですが、これまでケアマネージャーとして関わっていたため、職員とは意思疎通がスムーズです。会議においてもできるだけ管理者が決めず、職員の話し合いのリレーションと合意形成のプロセスを重視しています。行事レクに職員意見の反映がみられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与時にはホーム全体の、および個々の職員の評価があり、実績のあるものは法人から給与面の待遇を受ける。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で定期的実施する研修は、全職員が受講することが義務付けられている。また、認知症実践研修、管理者研修は、職員は積極的に受講する機会が与えられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日常業務の中での同業者との関わり他は、法人の側で意図して、交流の機会を作るようなことは、していない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や、入居後の会話の中で、本人の要望を積極的に聞き出し、サービスにつなげるよう、努めている。本人のその時その時の表情からも、思いを読み取っていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の見学時、面談時に家族からも意見や要望を聞き、サービス内容を決定している。家族との意見交換の中で、利用者に関する情報を共有し、それを通してホームとの関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居する時点で、支援が必要な多くの問題を利用者及び家族が抱えている場合は、地域包括、行政、他専門職とも連携をとりながら、問題の解決に尽力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の主体性が尊重された生活が送れるよう、配慮している。できること、自分でやりたいことは自分自身で行える環境づくりを心掛け、職員は互いに学び、支え合うという気持ちを大切にしよう、努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時等に、詳しく本人の近況報告をしている。通院や外出等、家族に協力してもらえることは出来る限りお願いし、本人と家族の絆が途切れないよう、支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外部からの便り、電話、面会等が、本人にとっても、馴染みの人にとっても、心地良いものであり続けられるように、ホーム側で意図的な支援を行っている。	友人や隣近所の人々が訪ねてくれ、また利用者も家族や友人へ絵手紙を届け、双方向のやりとりが実現しています。在宅時からの趣味である編み物やくす玉作りを継続している利用者もいて、糸などの買い物も職員と一緒に掛付け自ら選んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事や入浴、家事仕事やレクリエーションなど日常生活の営みの中で、利用者同士が協働作業を行い、それを通して皆が良い関わり合いができるよう、支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員が退居した利用者のところへ行き、話に花を咲かせて来ることもよくあるが、今後の本人の支援に役立つ活動であると意識している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症で自分の希望を上手に表現できない利用者については、本人の表情、態度、様子から思いを汲み取り、より本人本位のケアが出来るよう、努力している。	日々の気づきを記入する介護記録には発語そのものを記載するようにして、想いを大切にす姿勢が視えます。介護記録については会議で話し合い、精査しています。墓参へ行きたいとの要望も家族が付添えない場合は職員が随行するなど、実現に尽力しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人や家族から、これまでの暮らしについての情報を収集している。入居後にも、本人や家族との関係が深まる中で、さらにより良い援助につながる情報を得るよう、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状態は必ず介護記録に記入し、職員間で情報を共有している。特に状態に変化があるときは、口頭で申し送りをし、職員全員が適切な現状把握が出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを定期的に行い、本人の希望、家族の意向、主治医のアドバイス等を踏まえながら、複数の職員で本人のケアのあり方について意見を交換した上で、介護計画を作成している。	個人毎にモニタリングとプランの予定表が掲示されていて、取り組み意識の高さを感じます。実践者研修で学んだセンター方式をさらに活用しようとしていて、カンファレンスで実際に取り組み始めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の中で、本人にとっての重大なトピックスや特に職員が気付いたことは、介護記録詳細に記録し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のライフスタイルや、ニーズの変化に合わせて、外食、買い物、受診の付き添いなど、その都度必要な支援を行い、対応するよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター、自治会、民生委員、地域のボランティア、消防・警察等の協力を得て、地域での安全なホームの運営が実現している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者がこれまで掛かっていた医療機関は、ホームに入居後も、原則として継続的に受診するようにしている。職員はそれぞれの主治医との信頼関係の構築に努めている。	利用者のほとんどが協力医療機関に変更し、職員が受診支援を行っていますが、家族が積極的に受診支援くださる利用者もいます。医療情報は個人ファイルに記載され、申し送りでも随時共有化しています。服薬はマジックで色分けし、またダブルチェックもかけています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所内には看護職はいないが、必要があれば、グループ内の看護師に意見を聞くこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院関係者と密に情報交換を行い、ホーム側が協力すべきことを把握し、本人の治療と今後の療養が、円滑に進行できるよう、支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化して医療行為が必要な場合は、十分な対応ができないことがある、と家族には説明しているが、本人・家族の意向を出来るだけ尊重したいと考えている。	AEDの講習に参加するなど、緊急時の対応についての取り組みはみられますが、ターミナルケアへの体制は整っていません。体制づくりは今後の課題ですが、いずれにしても医療連携の伴う看取りはできないと判断しています。	事業所の考えや体制について家族への理解を求める機会を年1回程度つくることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時の対応については、社内で定期的に研修を行っている。マニュアルや連絡網の整備も出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の方の協力を得て、定期的に消防訓練を実施しており、非常事の対応について、全職員が訓練を受ける機会を設けている。	豚汁とむすびの炊き出しやテント張りなど多様なメニューを実践しています。「近所の人々の興味を湧くように」と、煙がでる仕掛けを用意くださるなど、消防署の職員の協力も得ていますが、地域からの参加は未だ実現していません。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄時には、本人の自尊心を損ねないような声掛けに配慮している。物事に誘う時は、本人の意思を十分尊重するような対応を心掛けている。	法人本部が接遇向上に取り組み始めていて、朝礼時には個人情報や倫理・法令遵守などと併せ読み上げています。トイレ誘導もさりげない声掛けを心掛けるなど諸所一般的な取り組みは成されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを行う際は、本人自身が希望を表出できるように工夫し、自己決定を促すような話し掛け方に気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者の、その日の体調や気分に対応し、スケジュールにそった画一的なケアにならないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿って、好みの洋服の購入に付き添ったり、化粧品を使ってもらったりして、おしゃれが楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、手作りの食事を提供しており、利用者と一緒に準備をしたり、要望に沿ったメニューを取り入れる等、食事を楽しめる支援を心掛けている。	普段は業者から仕入れた食材で職員が手作りにしていますが、利用者がメニューを考案する日が週2日あります。食事のスピードや咀嚼など摂り方に個人の特徴があるため、職員が一人ひとりに声かけし廻っている様子を視認しました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	宅配業者の食材を使用しており、メニューは栄養バランスを考えたものになっている。水分補給は、毎食と10時、3時に行っていて、脱水に気を付けている。健康のため牛乳の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後行っていて、随時各利用者の口腔内の状態をチェックし、健康が保たれるよう、努めている。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの利用者の排泄のパターンや習慣を把握するとともに、ちょっとした仕草や行動の変化による排泄のサインを見逃さないよう、日々努力している。	日中はオムツなし、トイレでの排泄を旨としています。トイレ介助が必要な利用者が大半なため、職員は排泄チェック表からのパターン把握とともに、見守りがもれないよう留意しています。センター方式を利用した詳細な記録も取っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排尿・排便があった時はその都度チェック表に記載し、状態を把握している。また、食事内容や水分摂取に気を付けている。毎朝の体操や歩行練習にも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週間のスケジュールを決めて、交代で入ってもらっているが、本人の入りたいと言う希望や、その日の気分等に、出来るだけ合わせるように配慮している。	週3日を目安に、入浴日の変更やお湯の熱さの好みなど利用者の意向に応じています。また、1階と2階で交互に湯をはっていて、希望があれば毎日入浴できます。言葉のキャッチボールができる人は、職員との会話を楽しんだり、歌を唄う人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	クーラーや暖房は、本人の希望を聞きながら使用している。また、季節に応じて、寝具の入れ替えを行っており、定期的に布団干しをして、気持ち良く眠れるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の目的は、薬管理票に記載し、職員に周知している。服薬時には、名前の確認を確実にし、誤薬の防止に努めると共に、きちんと飲み込むまで、しっかり見届けるように心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ることを見極め、出来ることは自身で行ってもらい、本人の自信につながるよう支援している。散歩や絵手紙教室、カラオケなど、気分転換ができるような活動に、随時誘っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の気温や天候、一人ひとりの体調を考慮しながら、外出支援を行っている。希望がある時は、出来るだけドライブや買い物、地域の催しものへの参加の支援も行っている。	天候や体調が整えば、散歩に出かけています。難しい場合は、戸外のベンチで訪れる鳥を眺めながら外気浴を楽しんでいます。週2日買い物に行く際は利用者も一緒に行ったり、随時ドライブに出かけています。また年2回の遠足も利用者の楽しみとなっていて、次回は動物園を予定しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う能力のある人から買い物の希望がある時は、ホームで預かっている本人のお小遣いを所持してもらい、本人にレジをしてもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけることについて希望がある時は、ホームの電話を使用してもらっている。家族友人に手紙や年賀状を書く支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには植木を置いたり利用者の作った作品を飾ったりして、心地良い空間づくりをすよう努めている。室温や光の強さ、テレビや音楽の大きさにも、細かい配慮をしている。	食事が終わると居室ではなくソファに座る利用者が多く、共用空間が居心地のよい場所であることが視えます。利用者の作品である絵手紙も季節を彩る手助けとなっています。また、窓際で健やかに育つネギのプランターが、日頃の職員の関わりの深さを物語っているようでした。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには大きなテーブルが2つある他に、ソファも2つあり、気の合った利用者同士がそれぞれ好きな席に座り、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりに1つの居室が用意されており、これまでの生活で使用してきた馴染みのものを持ち込んでもらっていて、それぞれの方にとって居心地の良い空間になるよう、援助している。	ベッドは備えつけですが、身体状況によって配置を替えています。また、転倒防止などの観点から、ベッドをはずしマットに布団を敷いている利用者もいます。鏡台や仏壇など馴染みの調度品を持ち込んでいる居室もありますが、大半はクローゼットに収納されすっきりとした空間です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、要所要所に手すりを設置している。ベッドからの転落を防ぐための手すりや、転倒予防のためのセンサー、ナースコール等も設置されている。		